

ネット社会と集団語*

松田謙次郎

一 . はじめに

ここでは、ネット社会における集団語のありようを考えるために、七つの問題に答えることで筆者の現在の考え方をまとめてみよう。資料としては、巨大匿名掲示板の代表格である「2ちゃんねる」と、同様な形態を持ちながら大学教員・院生・研究者を対象とした掲示板である「仮に研究する人生」、そしてソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)の代表格である mixi (ミクシー) を取り上げる。

二 . データ: 「2ちゃんねる」・「仮に研究する人生」・「mixi」

「2ちゃんねる」(以後「2」と略記)は一九九九年に生まれた掲示板である。二〇〇六年七月現在44のカテゴリの下に合計八三〇余りのジャンル(「板(いた)」)が存在し、各板の中でさらにスレッドが展開している。同種の掲示板では最も高い社会的認知度を誇る。

「仮に研究する人生」(以後「仮」と略記)も同種の掲示板だが、こちらはスレッドのみの構成である。二〇〇〇年一二月に設立された「研究する人生」が始まりだが、二〇〇四年のセンター試験直前の書き込みをきっかけに閉鎖、その後別の管理人が『研究する人生』再開までの一時的な掲示板(「仮」トップページ)として設立したものがある。

SNSは、参加者が友人を紹介し合うことで友人の輪を広げていくサービスである。メンバーに紹介されてのみメンバーとなれる招待制システムが画期的である。メンバーは自分のプロフィールを設定し日記を書き、他人の日記にコメントを付け、あるテーマでユーザが集う掲示板(コミュニティ)に参加し書き込みをする。一旦メンバーとなれば今度は自分で誰かを紹介してメンバーに加えられる。こうした活動を通じて親しくなりたい人を友人として承認し、友人を増やすのが SNS の活動である。最もよく知られた SNS である mixi (ミクシー) のユーザは二〇〇六年六月現在で四三五万人に達し、毎日一五、〇〇〇人の割合で増加している(二〇〇六年六月一二日付日本経済新聞)。SNS はすでにネットで確固たる地位を築きつつあると言えよう。

では、これらを資料として七つの問題とそれらに対する筆者の考えを述べてみよう。

三 . ネット集団語の問題群

問題一 集団語とは何か?

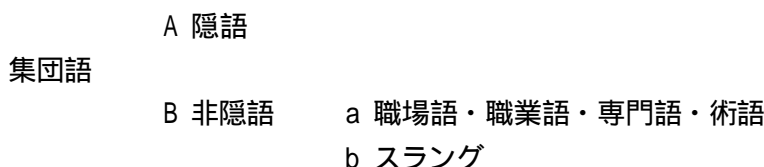
「集団語」という概念を提唱した柴田(一九五六)は、隠語、スラング、職業語といった概念を集団で使われるという点に着目して「集団語」という上位概念にまとめている。柴田によれば集団語の特色は以下の八点である(柴田 一九五八):

- (一) 集団語は人工的に作られる。
- (二) 集団語はメンバー間のつながりが緊密になった時に発生する。
- (三) 集団語は小さく等質な、孤立した集団で発生しやすい。
- (四) 集団語は集団内のメンバーの結びつきを固くするが、集団外の人との結びつき

をゆるめたり断ち切ったりしてしまう。

- (五) 集団語の特徴は、外国語の使用、単語の形の変化、意味の変化かのいずれかであり、発音、文法、文字に特徴が出ることは多くない。
- (六) 集団語は隠語、職業語/専門語、スラングに分けられる。
- (七) 隠語と職業語はコミュニケーションのもの、スラングはレクリエーションのものである。
- (八) 隠語や職業語は集団内で伝統として受け継がれていくこともあるが、スラングはほとんどそうということがなく、ごく短い期間のものである。

その後集団語、およびその下位概念である隠語は渡辺(一九八一)、木村・小出(編)(二〇〇〇)、米川(二〇〇〇)などで論じられてきた。渡辺(一九八一：一二)は集団語と隠語などの関係を三層の階層構造として捉えている：



これに対して米川の分類は集団語に反社会的集団の語(犯罪用語・不良用語など) 職業的集団の語(業界用語・職業語) 趣味娯楽集団の語(釣り・囲碁の語など) および若者集団の語(若者語・キャンパス用語)の四種を認め、それぞれに隠語と非隠語があるとする見解を示している(米川 二〇〇〇：八一五)。米川(二〇〇〇：八二六)はまた七つの集団語の特徴を挙げている：

- (一) 各集団ごとの語の志向が異なる。例えば犯罪者は隠語志向など。
- (二) 一般語にはあまりない造語法で語を造っている。
- (三) 同義語が多い。
- (四) 狭い範囲にのみ通じる言葉が多く、ヨソ者にはわからない言葉である。
- (五) ヨソ者が知って使用することで通ぶることができる。
- (六) 古くからある集団は和語・漢語を用いることが非常に多いが、新しい集団は外来語や頭字語を用いることが多い。
- (七) 専門語を除けば、集団語は多く俗語に属する。

このように集団語の定義や下位分類は異なるが、柴田の(一)~(五)を最大公約数と考え、ここでの定義としよう。

問題二 ネット社会とは何か?

「ネット社会」は、「インターネットを通じて接続された個人・組織が、インターネット上のさまざまな通信方式でサーバを介してコミュニケーションを取り合うことで構成されるネットワーク、またそうしたネットワークの集合体」と規定できる。「さまざまな通信方式」には、電子メール、ウェブ、FTP 等を含んでいるが、集団語の対象としては前二者、

特にウェブが中心になる。そこには古典的ウェブサイトから、ブログや SNS、さらにオンラインゲームまでもが含まれる。「ネットワークの集積体」であるのは、職場・家庭内 LAN といったローカルネットワーク同士が結び付き合い、さらに大きなネットワーク同士が結び付き合うという「ネットワークのネットワーク」であるインターネットの特色である。

問題三 「ネット集団語」とは何か？

前問で見たような、インターネットを仲介して繋がった人々がネット上の掲示板、メール(含メーリングリスト)、チャットなどで交流するうちに発生した集団語が「ネット集団語」である。以下、ネット以外の一般社会で発生した集団語を「一般集団語」としてネット集団語と区別しよう。ネット集団語は、大別して顔文字(emoticon, smiley, face mark)と、単語を中心として、音声、文字、文法などの言語形式を持つものがある。本稿では後者にもっぱら焦点を当てる(注一)。

ネット集団語の実例については、「2」の用語辞典である2典プロジェクト(編)(二〇〇五)が詳しい。品詞別にそのいくつかを引用してみよう(注二)。

【動詞】 きぼーん・きぼん・挿^ノヌ(「^ノを希望する」の意味) うpする・うぷする(ファイルをサーバにアップロードすること) タイ^ホする(逮捕する) 弔^ヌ(殺す) ルケ^ン(発見)

【名詞】 DQN・ドキュン・ドキュソ・毒素(人生に確固たる目的も持たず、反社会的な行動を取ったり、自堕落な生活を送ったりする者の蔑称) 厨房(中学生、また程度の低い人) 香具師・椰子・杓(奴) 祭り(現在進行中のイベントや事件などについて、特定のスレ上で盛り上がること) アフォ(アホ) あぼーん(削除されたレスにつく言葉、また何かを廃止、破棄すること。またはされること) がいしゅつ(既出)

【代名詞】 漏れ(俺) 藻前(おまえ) おまいら

【副詞】 マ^クリ 僕^イ

【助動詞】 ますた でつ(です)

【形容詞】 加^カカ^イ(カッコ悪い) かけー(格好いい) 托^イ(きもい)

【形容動詞】 おっとている(劣っている)

【感嘆詞】 杓^ノ (ノ) ッ!!(「神降臨などの時感動を表す言葉」) スマソ(すまない) w・(w(笑い) イ!(感動・誉めている様子を表す)

【終助詞】 yo!・YO!(詠嘆、念押し) ne!(詠嘆、念押し) ぼ(推量、比況、意思、断定を表す。主に体言、用言の終止形に接続)

【擬態語・擬音語】 ル^ルル(性的に興奮した様子) プ^ッ(嘲笑を示す) シ^ホー^ン(しょんぼり、鬱などの状態を表す) ア^ハハ(荒らしの時などに使われる言葉)

【言い回し・成句】 逝^シってよし(「死ぬ」または「ここから出て行け」の意味) おながいします(お願いします) ｺ^ノｽ^マﾝ(ごめん) ~と思われ(個人的な判断や推測、または感情などを表現する) 激しく同意!・激しく胴衣!・禿同(激しく同意している状態)

『2典』はまた2ちゃんねる語の簡単な文法として、サ変・力変動詞を除いた動詞の命令形の工段化(例:見れ、捨てれ--サ変動詞は「~汁・~しる」となり、力変動詞は「来

い」のまま) 漢字の当て字(誤変換、意図的な当て字)、促音の長音化(まったく マーリ
いっぱい ㇿーイ)を挙げている。これらの例からもわかるように、さらに半角カナの使用
も顕著な表記面の特徴である。いずれにしても、2ちゃんねる語の特徴は文法、音韻、語
彙など多岐に渡るが、特にその表記面の特徴が著しいことが分かる。

「仮」は参加者層では高学歴層が大半と考えられ、「2」的言動を避ける傾向も見られる
が、集団語の使用においては「2」に引けを取らない。サイトの性質からアカデミアに関
するものに限定されるが、筆者の採取した実例を見てみよう(カッコ内は意味(注三))。

酷立・酷率(国立) 尻津(私立) 宮廷・旧邸(旧帝国大学) 痴呆(地方) 遅
刻(地方国立大学) 地底(地方旧帝国大学) 凶獣・狂獣(教授) 序享受(助教
授) 子牛(講師) ドナ・ドナドナ子牛(指導教官の指導により新任教員として地
方大学に講師として送られる者、または単に地方の意) 悶下省・悶苛省(文部科学
省) 邦楽(法学) 赤腹(アカデミック・ハラスメント) 毒法化(独立行政法人
化) 東・西の横綱(それぞれ東大・京大のこと) ロンダ(三流以下の大学学部を
出た学生が一流校の大学院へ入学して学歴向上を図ること) DQS大(底辺レベル大
学のこと) 放置プレイ(指導教官に大学院生が全く見放されている、または全く指
導をしてもらえない状態のこと) ポス毒(ポスドク) 隠棲・陰性(大学院生)

これらの語に見られる特徴は主に表記であり、他にももじり、2ちゃんねる語の転用も
散見する。実際の書き込みでも2ちゃんねる語は珍しくない。ただし「研究する人生」に
特有な集団語は、ほぼ単語(名詞)止まりであり、「2」ほどの広範さはない。これは参加
者層の反映だろうか。ただし名詞が多いというのは「2」「仮」どちらの集団語でも共通す
る特徴である。「2」では成句も少なくないが、形容詞、副詞などの例は稀である。この点
は従来の集団語と共通の特徴であろう。

問題四 ネット集団語と一般集団語では何が共通で、何が異なるのか?

一節で挙げた柴田(一九五八)の八基準のうち、両者の区別に重要と思われる(一)~
(五)および米川の(一)~(七)でネット標準語と一般標準語を比較してみよう。柴田(一)
(二)(四)についてはどちらも共通である。ネット集団語は人工的なものである。また
同じ掲示板でこまめにスレッドの流れに沿った書き込みをする、チャットであればなじみ
のチャット仲間とほぼ毎日のようにチャットをする、といったことを繰り返すことでメン
バー間の関係は緊密になる。こうしたメンバーの積極的行動なしには、集団語は生まれよ
うもない。同時にこうした書き込みの中で「もうだめぽ」だの「×糞」だのと書くこ
とで、書き手は「2」というサイトの住人(2ちゃんねらー)としての自己のアイデンテ
ィティを確認し、そのように他のメンバーから認識され、メンバー間の結束はより強固な
ものとなるのである。ここらの事情については、一般集団語と何ら変わる所はない。

柴田(三)と(五)についてはネット集団語と一般集団語では微妙に事情は異なりそう
である。ネットの集団は小さく等質で孤立しているかと言えば、「2」では確かに八二〇も
の板ではそれぞれのテーマに特化した話題がスレに分かれて展開している。その意味では
その板に集うグループは興味の点で等質である。ただし、一般集団語の集団と比較すると、
掲示板の特定板に集うグループははるかにオープンな集合体である。またその規模にして

も、柴田が集団語が発生するのにちょうど良い規模としている八人～数十人（柴田一九五八：一四七）よりは大規模なはずである。つまりネット集団語では柴田基準の（三）のうち、「小規模」という基準は当てはまらなると考えられる。

柴田基準（五）については、すでに見た通りネット集団語ではむしろ表記に特徴が出る。つまり、集団語は媒体が異なれば表記が中心の特徴になっても構わないわけである。当たり前のようにだが、この点はネット集団語が誕生して初めて判明した事実なのである。

では米川基準はどうだろう。（一）の各集団ごとの語の志向というのは、「2」のジャンルで考えるとわかりやすい。犯罪はともかく、趣味、職業などの板では、それぞれの集団語が発達している。たとえば相撲板では、Xe・キセノン（稀勢の里）、ドルジ（朝青龍）、ミヤヴィ（雅山）、ひろゆき（魁皇）といった力士名の集団語が使われており、他の板でも同様な現象が見られるのであり、これは一般集団語と同様である。（二）の造語法については、やはり当て字や表記面を含めるならば一般集団語と同様である。（三）の同義語は上例から明らかだろう。（四）についても同様である。いったい、「Xe」という表記で「稀勢の里」とすぐに分かる人がどれくらいいるだろう。当然こうした集団語を使えば「その板の住人＝通」として振る舞えることができる（かもしれない）。

（六）についてはサイトによって大きく異なる。「2」ではもはや日本語にあり得る表記をすべて活用しているとは言いようがなく、どの語種が多いとは言えない状況にある。これに対して「仮」では、漢語が多い。最後の専門語以外の集団語は俗語だという指摘も受け入れられるものである。こう考えると、米川の集団語の特徴はほぼそのままネット集団語に適用可能なようである。

問題五 .ネット集団語はネットのどういう場 状況で発生しやすいのか？

集団語の性格からしてある程度固定したメンバーが頻繁に集い、緊密なコミュニケーション（書き込み）があるサイトで発生しやすくなる。これは仲良しグループで集団語が発生する仕組みと変わらない。よっていくら掲示板を立ち上げて、書き込みが少なかったり、参加者同士の連帯感が生まれにくい状況が続いたら、集団語は生まれないのである。

ただし、単に書き込みが多いだけでは不十分である。ネット集団語が発生するには、もう一つ、そこに気安く羽目が外せる雰囲気、ないしはなんでも気兼ねなくなんでも書き込める状況がないと難しいのではないかと。そういう雰囲気があって、はじめて他のメンバーは自由な発想を働かせて自分で新たな造語を行ったり、他のメンバーの打ち間違い・読み間違いを新語として採用したり（例：既出 ガイシュツ（既出の読み違い）、漏れ（「俺」のタイプミス））することができるのである。たとえば、「2」が匿名ではなく、リモートホスト名が書き込みと一緒に必ず表示されるとか（注四）氏名やメールアドレスの記入が必須となり、何らかの形で自分の本人情報を開示せねばならなくなった場合、果たして現在のように盛んに集団語が生産されていくだろうか。

このことが確認できるのが SNS である。ミクシィで筆者が参与観察を行い、また周囲の複数ユーザにも聞いて判明したことは、ミクシィではほとんど集団語が存在しないという事実である。筆者の収集した限りでは、ミクシィ自体に関するテクニカルタームを除いては、マイミク（承認した友人のこと）、リアルミク（マイミクと実際に会うこと、また実際にあったマイミクのこと）、コミュ（コミュニティの短縮語）くらいなのである。

それではなぜミクシィでは集団語が発生しにくいのだろうか。それは、ミクシィでは参

加者がすべて誰かの紹介であり、友人同士のネットワークも築いているために、「誰々の友人」という曖昧な形ではあるがある程度の身元がわかるので、日記に変な書き込みをしたり、コミュニティ掲示板に人を不快にさせるような書き込みや、いわゆる荒らし行為がしにくいからであると思われる（注五）。その結果書き込みが一概に丁寧になり、ネガティブな、人を傷付けるような書き込みがしにくくなるのである。これは参加者にとっては「2」的なある意味厳しいネット社会の寒風に晒されずにすむわけだが、その反面、生き生きとしたレスの交換に欠け、全体としておとなしいという印象にも繋がっていく。こうした状況下では集団語は生まれにくくなるのではないと思われる。

まとめると、ネット集団語が発生しやすい条件としては、柴田の諸条件に加えて、気兼ねなく言いたいことが言える場、というのが加えられるだろう。

問題六 . ネット集団語と一般集団語の関係はどうなっているのか？

ネット集団語と一般集団語の関係性を両者間の流れで整理してみよう。ネット 一般という流れと、一般 ネットという伝播方向である。ネット 一般という流れは、特定ネット集団のみが共有していた集団語が何からのきっかけで一般社会へ拡散していく過程である。「電車男」がドラマ化され一部の2ちゃんねる語がマスコミを通じて一般に知られるようになったのは、まさにこのプロセスによる。しかし一旦こうして一般社会に拡散した集団語は、すでに元々の集団のみが知る隠語的正確を半ば失ってしまっている。拡散後の集団語は、今度は一般社会の中で「オタク」的な俗語としての評価・地位を与えられることになる。もちろん一般に拡散と言っても、関心を持たない人は依然こうしたネット集団語を理解しない者もいるわけであり、その意味では若者語に近い性格と言えよう。

では一般集団語からネット集団語への方向はどうだろう。筆者は寡聞にしてこうした例を知らないが、すでに存在しているグループが、ネットでも繋がるようになりそこで既存集団語を使う分には、何らの変化もないはずである。あり得るとすれば、語感的にインパクトのある、それまで一般にあまり知られていなかった集団語がマスコミを通じて一般化され、そこからネット社会に入り込み、一部集団で意味を特化された上でネット集団語化する過程であろうか。いずれにしても、ネット集団語と一般集団語の両方向の伝播には、マスコミの介在が不可欠なはずである（cf. 井上（二〇〇五））。

問題七 . 今後ネット集団語ではどのような面白い問題が考えられるのか。

今後明らかにされなければならないと思われる課題を、思いつくままに挙げてみよう

(a) ネット集団語でも柴田（一九五六）の「言語ボス」は存在するのか。「言語ボス」とは、その集団である語形を初めて言い出して、その語形が広まるような言い出し手のことである。柴田（一九五六）は、どの集団にも言語ボスがおり、言語ボスがいないか、その力が弱いときには集団語は生まれないだろうし、たとえ生まれても広がらないだろうと考えた。さらに言語ボスは言葉以外にもリーダー格であることが多く、ある意味の政治力を備えた人ではないかと推察している。ではネット集団語にも言語ボスは存在するのだろうか？だとすれば、それはどういう特質を持ったユーザなのだろうか。

(b) ネット集団への関わり具合と集団語使用率・理解度は相関するだろうか？たとえば、ある掲示板なりサイトなりを仲介として繋がっているメンバーがいるとしよう。そのメンバーたちは、全員が等しく互いに繋がっているのではなく、メンバーのネットワークの中心にいて誰とも繋がっている者もいれば、端にいて、一握りのメンバーとしかつなが

りを持たない者もいるはずである。当然こうしたメンバーは、この集団の言語を含めた各種行動様式もあまり共有しないであろう。

実際の社会でこれを実証したのが Labov (1972) によるニューヨークのアフリカ系アメリカ人不良少年グループに関する研究である。グループのネットワークで周辺的な地位しか持っていなかったメンバーは、グループに特徴的な言語形式の使用率が極めて低かったのである。こうした研究をネット集団語でもできないものだろうか？

(c) SNS では本当に集団語は発生しないのか？ 筆者の観察ではほとんど採取できなかったが、これは歴史が浅いためだとも考えられる。また、異なる SNS で調査をする必要もある。SNS については、まだ慎重な観察が必要なのである。

四 . 終わりに

この特集が出た頃では、卒業論文のテーマ決定には遅すぎるであろうか。ネット集団語には、卒論のテーマには絶好と思われるものがいくつも見つかるので、まだテーマが確定していない学生は挑戦することを勧めたい。こうした新しい分野では、先行研究に縛られることの少ない学部生レベルの、研究者の意表をつくような発想で思わぬ発見が出ることも珍しくない。特にネット集団語の研究には、社会言語学の知識だけではなく、ネット社会やネットワーク科学一般の知識が役立つはずである。そうした興味や知識を持った学生による斬新な研究を期待し、と言ってこの稿の終わりとしよう。

【注】

*本稿の執筆にあたっては、2006 年度神戸松蔭女子学院大学院「フィールドワーク」ゼミ参加者、および松井理直氏との議論に益する所があった。ここに記して感謝したい。なお、引用したネット集団語の一部には不快な感情を催しかねないものも含まれているが、筆者には学術的引用以外の意図はなく、純粋な言語学的データとしてご容赦頂きたい。

注一．顔文字については中丸 (2005) を始めとする中丸茂氏の一連の研究を参照のこと。

注二．語義についてはスペースの関係から適当に筆者が纏めている。また品詞についても筆者の判断に従った。

注三．意味については各スレッドと「研究する人生 過去ログ」サイトを参照した。

注四．実は「2」では現在、サーバで書き込みをしたユーザのリモートホスト名を保存している。これによりプロバイダーのアクセスポイント、会社・学校名などが特定可能である。そういう意味では、もはや全くの匿名掲示板ではない。

注五．松井理直氏の観察による。なお mixi 利用規約には、「他のユーザーに対する中傷、脅迫、いやがらせ、その他経済的もしくは精神的損害または不利益を与える行為。特に、本人に許可を得ずにユーザーID、ニックネーム、氏名等を特定した上での攻撃的批判 (中略) にあたる投稿を掲載することは、トラブルの元となりますのでお控えください」とあり、また「民族・人種・性別・年齢等による差別につながる表現の掲載」も禁止行為である。こうした禁止行為が発見されると登録削除を含めた措置がとられるのである。

【参考文献】

井上史雄 二〇〇五 「情報化と若者の言語行動」 橋元良明 (編) 講座社会言語科学 2』

- 八七～五三頁 ひつじ書房
- 木村義之・小出美河子 二〇〇〇 「解説編」 『隠語大辞典』 一四〇九～一四六三頁
皓星社
- 柴田武 一九五六 「集団生活が生むことば」石黒修他(編) 『ことばの講座』 5 八八～
一〇七頁 東京創元社
- 一九五八 「集団語とは」 『NHK 国語講座 日本語の常識』 一四二～一八五頁
- 中丸茂 二〇〇五 「エモティコンの世界」橋元良明(編) 『講座社会言語科学 2』 八
七～一一六頁 ひつじ書房
- 2ちゃんねる(監修) 二〇〇六 『「2ちゃんねる」公式ガイド二〇〇六』 コアマガジ
ン
- 2典プロジェクト 二〇〇五 『2典(第三版)』宝島社
- 米川明彦 二〇〇〇 「集団語概説」 『集団語辞典』 八一五～八二六頁 東京堂
- 渡辺友左 一九八一 『隠語の世界--集団語へのいざない』 南雲堂
- Labov, William. 一九七二. "The linguistic consequences of being a lame." *Language in the Inner
City*. Philadelphia: Univ. of Pennsylvania Press, pp. 255-297.

【参照サイト】

- 「2ちゃんねる」 <http://www.2ch.net/>
- 「仮に研究する人生」 <http://jbbs.livedoor.jp/study/3974/>
- 「研究する人生 過去ログ」 <http://www.onweb.to/ken9/log/>
- 「mixi」 <http://mixi.jp/>